

交通弱者用 高反射タグ

日本工大発組織 高齢者に無償配布

日本工業大学専門職大学院（NITMO）の中小企業イノベーション・センサー新製品・新技術開発構想部会は、ソーシャルビジネス製品開発企画の第1弾として「交通弱者事故の防止に向けた高反射タグ」を開発した。製作費は1枚300円。年間1000枚作成する。8月以降に、高齢者や子ども、障害がい者を対象に無償配布する。

高反射材は夜間の視認性が高い。ドライバーから歩行者の視認距離は、黒系の服で25m、白系の服で40mほどだが、反射材を着用すると約130mになる。タグはつえやカバン、手押し車、車いす、ベビーカー、自転車などに取り付けてもらう。

ヒラミヤ（川崎市高津区）がデザイン、サンシン電気（東京都練馬区）グループが製造を担当した。石井宏宗部

会長（サンシン電気社長）は「まず社会貢献として、両社とNITMOを通じて無償配布する」と説明する。